

# 「人と人とのつながりをたいせつにしたい」

新潟はおいしい農産物の産地です。新潟県の農産物のファンになっていただけるように、コープにいがたでは、生産者と組合員のごつながりをたいせつにし、おいしさと生き立ちがわかる農産物をお届けしています。

## 新潟県の産地を応援しよう！

### にいがたの生産者

(今後企画予定の農産物を一部紹介)

#### JA 羽茂

● おけさ柿



#### JA 越後ながおか

● 枝豆 (肴豆)



#### JA にいがた南蒲

● 洋なし(ル・レクチュ) 三条市



フランス生まれの「南蒲」育ち！  
上品な香りと多汁で滑らかな食感の洋なしです。



● さといも (帛乙女) 五泉市



絹のような白さと滑らかな舌触り、やわらかな食感が特徴です。また、煮崩れしにくく、煮物やお鍋にぴったり。

のっぺいもみそ筑前煮

#### JA 新潟市

● 不揃いにんじん 新潟市 北区



見た目より味で勝負！  
料理によって、大小使い分けてください。



#### JA 新潟みらい

● 春菊



● さつまいも (いもジェンヌ) 新潟市西区



しっとり甘いさつまいもです。収穫後すぐに一定の温度・湿度の中で約30～40日保存することで甘味が上がります。

● やわ肌ねぎ 新潟市西区



白い部分が多く、やわらかさと甘味が特徴です。加熱すると更に甘味が増えてとろける食感が味わえます。

● 巨峰 / シャインマスカット 新潟市 南区



甘味と程よい酸味がありジュース。大事に育てた「しろねの巨峰」をご賞味ください。

### にいがた大好き！野菜セット



※商品とともに、野菜の産地名とレシピの入ったリーフレットが届きます。

地元「新潟県内」の季節の野菜をセット(4品目以上)でお届けします。

#### 組合員の声

どの野菜もとてもおいしかったです。玉ねぎを少なくしてもう1品野菜が入っていると良かったかな？レシピが参考になりました。また頼みたいです。



にいがた大好き！

新潟の振興・農産物応援を行うという主旨で、コープにいがたと新潟県総合生協、コープデリが共同調達した農産物に対して、「にいがた大好き！」という新しいマークができました。

「ハピ・デリー」には、新潟県の農産品も多く紹介されているのをご存知ですか？コープにいがたでは、「にいがた大好き！」のマークを新たに作成し、旬のおすすめ野菜の横に表示しています。県内の生産者と農産物を応援する取り組みを紹介します。

6/21  
(水)

## 「コープにいがた」「新潟県総合生協」共同開発 新潟県産大豆を使用した豆腐・大豆産地見学会

コープにいがたと新潟県総合生協の共同開発の第一弾、新潟県産大豆「里のほほえみ」の産地見学会と学習会が行われ、二つの生協より44名が参加しました。はじめに、三条市のいちい大豆センターで大豆畑を見学し、生産者の武石さんに大豆栽培のお話を伺いました。「田んぼに稲と大豆を数年おきに植えていく中で、稲を作った後の田んぼを大豆畑にする際に、固い土を細かく耕す作業が大変です。農薬は必要以上に使わないこと、その一つの方法として初期生育を良くする努力をし、葉が茂ることで下の雑草に日光が当たらず生えないように工夫しています」と話してくれました。



大豆の圃場で、アグリみずほの武石さんから栽培のようすをお聞きしました

次にJAにいがた南蒲の農産物直売所「ただいまーと」に移動し、豆腐の製造元「(有)こなかわ」の粉川さんより豆腐についてのお話を伺いました。新潟県産大豆と天然のにがりを使って、今までとは異なる味や風味の豆腐を作ること目標に開発しているそうです。その後の試食では「従来の豆腐よりも柔らかく甘みのある仕上がりがだね」と参加者からの声がありました。試食後のアンケートは、今後の開発の参考にされるそうです。発売は12月1回を予定しています。



「共同開発の豆腐」についての説明を受けた後、(有)こなかわの粉川隆太取締役部長より豆腐についての学習会がありました



新潟県産原材料を使った  
新潟製造の加工品には  
「にいがた100」のマークが  
表示されます。

現在商品  
開発中!



### 「新潟県における地域生協の連帯推進共同宣言」を発表しました

## 生活協同組合コープにいがたと新潟県総合生活協同組合は

ともに新潟県内で活動する生協として、消費者・組合員の共通の願いを実現すること、  
新潟県の農業や地場産業への貢献を目指します

5月24日(水)、コープにいがたは新潟県総合生活協同組合(以下、総合生協)とともに新潟県政記者クラブで会見を行い、共同宣言を発表しました。

コープにいがた 長谷川専務理事(現理事長)が共同宣言を発表し、続いて総合生協 山口専務理事が共同宣言の目的と具体的な取り組みについて説明しました。6月2回以降、新潟県産の農産品を「にいがた大好き!」のキャッチフレーズの下、両生協の統一企画として供給していくことや商品の共同開発をすすめていくことが発表されました。



▲「新潟県における地域生協の連帯推進共同宣言」を読み上げる長谷川専務理事(現理事長)と飯島理事(写真左)

#### ＜新潟県における地域生協の 連帯推進共同宣言 一部抜粋＞

- 私たちは、産直の取り組みを通して生産者と組合員のつながりを強め、新潟県産品の利用を広げ、新潟県の農業や地場産業の発展に貢献します。
- 私たちは、新潟県の消費者ニーズに応えた商品を開発・選定し、安定的に組合員にお届けします。

お互いの生協で消費を確保し、県内の産地につないで厳しい状況にある生産の現場を守り、消費者と生産者をつなぐのが地域生協としての役割だと思っています。

長谷川専務理事  
(現理事長)

組合員活動の分野では平和や食の安全・安心のテーマで総合生協さんと協力してきました。今回の県内の生産者やメーカーを応援するという願いも両生協の組合員共通のものだと思います。

飯島理事